

さくら



令和7年11月18日(火)

人間関係の基本を考える（その3）

感 謝

日々の生活で、私たちはたくさんの人に助けられています。重い荷物を運んでいるときに手伝ってもらおう。体調が悪いときに温かい気遣いをいただく。頭を抱えているときに知恵を貸してもらおう。数え上げればきりがありません。皆さんにもそんな経験があることでしょう。反対に、皆さんが誰かを助けることもあります。私たちは皆、互いに助け合って生きています。だからこそ、互いに感謝し合うことはとても大切です。

ところで皆さんは、身近な人に感謝できているでしょうか。先生、友だち、地域の人などから何かをしてもらったときは、素直に感謝の言葉が出てくることが多いでしょう。しかし、親や兄弟といった家族から何かをしてもらったときに、心から感謝できていますか。頭では分かっている、つつい感謝を忘れ、やってもらって当たり前になっていませんか。今日からは、一番身近な存在である家族にも、感謝の気持ちを言葉と行動でしっかりと表していきましょう。

福を分かち合う（情報共有も分福[ぶんぷく]）

大学時代、アルバイト先の事務所に「分福」と筆で書かれた紙が貼られていました。副社長さんが書いたとのこと。気になったので、副社長さんに意味を聞いてみました。すると次のように教えてくれました。会社のスローガンであること。良いことがおこったら、その喜びを自分だけで取り込まずに、多くの人と分かち合うことが大切。そうすることで、次の福（幸運）につながるということです。

先日、仕事のことで判断に迷っていました。判断をするための情報（根拠）があまりにも乏しかったからです。頭を悩ましていたところ、他校の校長先生が、とても有益な情報をくださり助かったことがありました。その先生は、ご自分が持っている有益な情報を、いつも教えてくださるのです。

「福」は利益や幸運だけではありません。有益な情報もまた「福」ととらえることができます。有益な情報を自分だけのものにせず、他者と共有する。その情報をもらうことで、助かる人もいます。これもまた分福なのです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

